

青森県弘前市方言のアスペクト

渡邊 修平

I. はじめに

(1)調査対象地：弘前市は青森県の中津軽郡に位置し、古く藩都であったこともあって「津軽弁の標準語」とされている。人口は約17万で教育・文化の中心的役割を果たしている。

(2)調査年月日時：1994年7月11日午後2時30分～4時30分

(3)話者：佐藤きむ 昭和7年9月19日生（61歳）

他 古山ハル 大正5年5月5日生（78歳）調査：1994年5月28日午後3時～6時

(4)調査者・調査場所：渡邊修平、ともに研究室

(5)調査方法・調査時の状況：古山氏の場合は昔の暮らしや語彙についての自然傍受法的な調査で得られたアスペクトについて確認している。

佐藤氏の場合は国語科教育の教官であり、項目ごとに質問内容を調査者と確認しつつ行なった。

(6)表記方法：弘前市方言は待遇の程度によって特徴的な表現があるので、質問項目に該当する相手を想定しても待遇的表現となる場合はこれも記述した。アクセントは傍線で注記する。なお文末詞を捨象すると話者にとっては不自然に感じられる場合はあえて捨象せず、そのまま記述した。カタカナ部の小字は時間的に短く発音されることを表す。共通語は「共」として略記する。

II. 調査結果

1. (昔は) よく行ったものだね $\overline{\text{ヨグ}} \overline{\text{イッタモンダ}} \overline{\text{キャ}} \overline{\text{ネハ}}$ *この場合は文末詞「ネハ」を伴うのがこの年代層の女性にとっては普通であり、なければ不自然となる。
2. (あのころは) おもしろかったなあ $\overline{\text{オモシロクテアッタ}} \overline{\text{ネハ}}$ *「共」の形容詞のかり活用が「～クテアッタ」の形をとる。例「アガクテアッタ」（赤かった）
3. (もうちょっとで) 落ちるところだった $\overline{\text{ワイハ}} \overline{\text{オジルドゴデアッタ}}$ *「ワイハ」は感動・驚きをあらわす。
4. (今にも) 落ちそうだよ $\overline{\text{オジルドゴダ}} \overline{\text{キャ}} / \overline{\text{オジルドゴデス}} \overline{\text{キャ}}$ *「キャ」は指定辞「ダ」とともに用いられることが多く、係助詞「こそ」あるいは「は」のように使われる。例「ワキャ イガネ」（私は行かない）
5. (財布を) 落として $\overline{\text{サイフ}} \overline{\text{オドシテ}}$ *無助詞の言い方が日常的である。
6. 困っている $\overline{\text{コマテシマタ}}$ 継続の場合でも「～てしまった」の形を用いる。
7. (一本の蠟燭が) 今にも消えそうだよ ① $\overline{\text{キエソーダ}} \overline{\text{ッキャ}} / \textcircled{2}$ $\overline{\text{キエソーデス}} \overline{\text{キャ}}$
*告知する相手が家の大人であれば②になる。
8. (今) 消えようとする(瞬間) ① $\overline{\text{キエデシマイ}} \overline{\text{ソーダ}} \overline{\text{ッキャ}} / \textcircled{2}$ $\overline{\text{キエデシマイ}} \overline{\text{ソー}}$

- デスキャ *「～てしまいそう」の形を用いる。
9. (完全に) 消えた(瞬間) ①キエデシマツタキャ／②キエデシマエシタキャ *「シマエシタ」は「共」の「～しました」に対応する「ま」を持たない形で、規則的に見られる。例「カル」(買う)・「オモル」(思う)：「カイシタ」(買いました)・「オモイシタ」(思いました)
10. (すでに) 消えていたよ ①キエデシマテアツタ／②キエデシマテアレシタ *過去完了は「～てしまってあった」のようになる。「アレシタ」は9と同じで「あり(ま)した」の形である。
11. (何本もの蠟燭が順に) 消えはじめた キエハジメダ *「共」と同じ。
12. (何本もの蠟燭が次々) 消えていくなあ キエデイグンダベナ *断定の「ンダ」に推量・意志の「ベ」、終助詞「ナ」がついたもの。
13. (何本もの蠟燭が順に) 消えているよ キエデイッテルンデセエ *進行の場合は「きえていって(いる)」の形になる。
14. (何本もの蠟燭が全部) 消えているよ キエデシマタンデセエ *この場合は「～てしまった」の形になる。「セエ」は親しい人にやや念を押す感じで使われる。
15. (何本もの蠟燭の火を次々) 消しているよ ケシテイッテルンデセエ *13と同様に「けしていって(いる)」の形になる。
16. (もう全部) 消しているか ①ミンナ ケササテアタガ／②ミンナ ケシテアタガ *質問の質問の状況に対応するのは普通①であるが、②も不適当ではない。①の「ケササ(テ)」は動詞の未然形に「サル・ラサル」がついた自発の用法。誰かが消したことによって「消してある」状況になっていることを表す。
17. (今にも桜が) 散りそうだ ①チルンタ／②チルドゴダ *①は「散る(え)んた」の形で「共」の「散る・ようだ／みたいだ」に対応する。例「雨フル(エ)ンタ」(雨が降りそうだ)
18. (ちらほらと) 散り始めた チリハジメダバリ *「散り始めたばかり」の意。
19. (今現に) 散っている チッテル *「共」と同じ。
20. (桜の木がすっかり) 散っている ①チッテシマタキャ／②チッテシマエシタキャ *この場合は完了として「～てしまった」「～てしまい(ま)した」の形をとる。
21. (地面一面に) 散っている チッテシマテ シガサテル *「散ってしまって(一面に花が)敷いてある」の意。
22. 今にも降りそうだ フルエンタ *17と同様に「～エンタ」の形になるが「フルドゴダ」はほとんど使わない。
23. (あの時は今にも雨が) 降りそうだったなあ ①フルエンテアツタキャ ネハ／②フルエンテアレシタキャ ネハ *「～エンテ」に「～テアツタ」の形がつくもの。
24. (あの時はもう実際に雨が) 降っていたよ ①フツテアツタキャ／②フツテアレシタキャ

25. (あの時はやがて夜が) 明けようとしていたよ アゲル^ードゴデア^ーツタ^ーキャ *この場合はこれ以外に該当する形が得られなかった。
26. (来年の今頃は家を) 建てている (最中) タデ^ーデルハン^ーデ *「共」と同様に「たてている」の形になる。「ハンデ」は「共」の「～から」(理由)に対応する。
27. (来年の今頃は家をすでに) 建てている タデ^ーデシマ^ーテルハン^ーデ *完了で「～てしまっている」の形を用いる。
28. (あの家はよく) 磨いてある ミガ^ーイデル *みがいて・あるではなく、「イル」を使う。
29. (隣の犬が) 鳴いている ナイ^ーデル *30.との区別はない。
30. (隣の子が) 泣いている ナイ^ーデル
31. (こどもたちが) 喧嘩している シテ^ール *「共」と同じ。
32. (家に) いるかなあ イル^ーベガ *推量の「ベ」と疑問の「ガ」の接続。
33. (〇〇さん) いるか ①イ^ーダベガ/②エ^ーシタベガ *32とは違って過去形で問う。
②はやや丁寧な形である。
34. (ああ) いるよ ①イ^ーダ/②エ^ーシタ *33に対応する形で過去で答える。
35. (そういう人も) いるよ イル^ーネハ *過去形でいう場合もある。
36. (あなたは今何を) していたか ①シテ^ーラ/②シテ^ーシタ *「シテラ」の「ラ」は「～である」が「～テラ」となったもので、「共」の「～してらあ」とは異なる。過去完了は「～シマツテラ」となる。例「アメフテラ」(雨が降っている)
37. (私は今金魚を) 見ていたよ ①イ^ーマ キンギョ ミテ^ーラノ/②イ^ーマ キンギョ ミデ^ーシタ ②は「ミデエシタ」の略。
38. (金魚が今にも) 死にそうだ ①シ^ースドゴ^ーダ/②シ^ースエン^ータカ^ーッコシテ^ール *②の場合は死ぬことが予想される場合を用いる。
39. (やっぱり金魚は) 死んでいたよ キンギョ シン^ーデシマ^ーテラ/シン^ーデシマ^ーテシタ *「～てしまっている」に対応する。
40. 読み始めていた ヨン^ーダバリノ^ードゴ^ーダ *これは「読み始めたばかり」の意の場合と「読み終わったばかり」の意の両方に使われる。
41. 読み始めたところへ(～た) ①ヨン^ーダバリノ^ードゴ^ーサ/②ヨミ^ーハジメ^ーダドゴ^ーサ *①の方が日常的に多く用いられる。
42. 着くと同時に～した ツ^ーダドゴ^ーサ *「着いたところへ」の意。
43. 着くと同時に～してくれ ツ^ーダラス^ーング^ード *「着いたらすぐに」に対応する。
44. 鳴りつづけている ナ^ーツテル
45. (先生は今何を) しているか ナ^ーニ ナ^ーハテ^ーエシ^ーテス *敬語形で「ナハテ」は「なさって」に対応する。「テス」は丁寧な助詞である。
46. 好きだ ス^ーギダ *「共」と同じ用法しか得られなかった。

47. 見られているのも ミラエデルノモワガラネデ *「ミラエデル」は「見られてる」で、定期的に「れる・られる」が「エル・ラエル」となる。
48. (今、運動会が) ある ヤテシタキャ *「シタ」は36②などの「ました」の形。
49. (降らなくて) よかったよ ①エクテアタ/②エクテアレシタ *「～てあった」の形。
50. (先生がこっちへ) 来つつある ①クル/△②オイデナハル (主に高年層の女性語で、話者の年代では使わない。
51. (犬がこっちへ) 来つつある クル
52. 似ている ニデル
53. (一週間も前から遊びに) 来ている キテル
54. (昔から) 苦勞していない クローシテネ *「～ない」が「～ネ」となるだけである。
55. (今はあまり) 苦勞しないでいる クローシテネ
56. ～は売っているが、～は売っていない ～ダバ ウツテルケドモ～ダバ ウツテネ
57. (昔からタバコを) 売っている ウツテル
58. (今、大売出しで衣料品を) 売っている ウツテル
59. (もう三回) 来ている キテル
60. (いつも) 来ている キテル
61. (昔はいつも) 来ていた ①キテラ/②キテアッタ *「～ている」場合にも「～テラ」を使うが、「～ていた」(過去の継続・経験)の場合にも用いる。②はもっぱら過去に用いる。
62. (前に一度) 行っている イッタゴドアル
63. 先に行っておいてほしい ①イッテデケ/②イッテデケヘ *「いっててくれ」に対応する形。②はより丁寧な形。
64. 待っていないさい マッテヘ *「ヘ」は丁寧な命令形である。
65. (外に) 待たせてあるよ ①マダセデルノ/②マダセテラノ *「～ラ」を使う場合は相手との会話時である。
66. 食べておいておくれ タベデヘ *「ヘ」は64と同じ。
67. (昔と) 違ってる チガッテル
68. (昔は今のと) 違っていた ①チガッテアッタ/△②チガッテラキャ *②はこういう話題で会話が続いている時に、相手に対して確認したり、同意を求める場合。
69. (毎日梅干しを) 食べている タベデル *独白の場合。
70. (毎朝) している ヤツテル *これも特に相手を意識しない場合。
71. 気をつけていて(～した) キーツケデデモ *「気(を)つけてても」に対応する。
72. 行ったまま～ イッタマンマ～

73. ~しながら ~シナガラ
74. ~の途中で~する イグトチュウ
75. ~の途中で~した イグトチュウ
76. ~の途中で止めて~した ①ヨムノゴド トジューデヤメデ/②ヨムノゴド ハンパニシテ *「ヨムノゴド」の「事」は助詞的に使われている。②の「ハンパニシテ」は物事を最後までやらない場合に使う。
77. ~したばかりだ ヨンダバリ *「共」の「ばかり」が「バリ」となる。
78. 無くなっている ナグナテル *基本的には「共」と同じ形。
79. 無くなるぞ ナグナルキャ
80. 掛けておいた帽子 カゲデオイダ ポーシ
81. 並んだ本 ナランデル (本)
82. 並べた本 ナランデル (本) *81との区別はない。
83. ~しておこうか ①ヨンデオグベガ/②ヨンデオゲスベガ
*推量・意志の「ベ」+疑問の「ガ」の形。②は「よんでおき(ま)すべか」の形。
84. やってあるか ヤッテシマッタ (?)
85. 壊している コワシテル *基本的には「共」と同じ形。
86. 壊れている コワレテル
87. 壊されている コワサレテル
88. のけてある トロケデオグ
89. 書き終わった カイデシマタ
90. 書いてしまいなさい カイデシマイヘ
91. 書いてしまう ①カガサル/②カガサテシマウ *「~サル」は16、21と同様に、自発の言い方である。例「ヨマサル」(読める)/「オギラサル」(起きられる)
①、②の敬意差はない。
92. 書いてみた カイデミダ *基本的には「共」と同じ形。
93. (孫は今)入院している ①ニューイン シテル/②ニューイン シテスオン *②の「オン」は女性特有の間投助詞でやさしい意を添える言い方。
94. (弟も今)入院しているそうだと ①ニューイン シテル下シ/②ニューイン シテルンダドシ/③ニューイン シテルテ キギシテスオン *「ド」は伝聞の「と」、「シ」は主に女性が使う間投助詞で丁寧さを添える。
95. (きっと)よくなるよ キット ヨグナルキャ *この場合は「よくなる」を使う。
96. (だんだん)よくなるよ ①ヨグナテイグベサ/②ヨグナテイゲスベ *「よくなっていく」の形。
97. 歳とるとね、 トシイゲバ *「とっていく」の形。
98. なおらなくなるよ ①ナオリニググナル/②ナオリニググナッテクル *①が自然

な言い方であるが、あえて言うとするば㊸の形になる。

99.(1) (犬が) 怪我したので (2) (子どもが) 怪我したので (3) (お父さんが) 怪我したので *いづれも「ヨル」は使わない。

100.(1) 「雨が降りつつある」はC「すでに盛んに降り続けている、降っている最中である」状態を言う。

(2) 「貯金が増えつつある」はB「すでに現にどんどん増えている」状態を表す。

(3) 「貯金を増やしつつある」はB「増やそうとして少し貯金を始めた」状態を表す。

その他：可能×打消し

101. (漢字が難しいので) 読めないよ ヨメヘン^ージャ *能力として読めない場合

102. (老眼なので小さい字は) 読めないよ ヨマエヘン^ージャ *ある条件であるために読めない場合

103. (長い間病気を患って) 起きられないの オギレ^ーネエノシ *能力として起きられない場合

104. (昨夜遅くまで仕事をしたので) 起きられないの オギラエ^ーネエノシ *ある条件であるために起きられない場合

III. 総括 (まとめ)

多少ではあるが、共通語にはない形や用法については各項目のところで注記しており、以上を参照いただきたい。

(わたなべしゅうへい 弘前大学教育学部)